



「ホールディングス化は効果的かつ効率的な経営手法なんです」と話す中村社長

アポロ工業株式会社



所在地 吉川市三輪野江2405
 代表者 代表取締役 中村 新一 氏
 事業内容 プレス用金型の設計製作および、
 プレス加工
 資本金 2,000万円 従業員数 23名
 TEL 048-981-5156
<https://www.apollo-kk.co.jp>



プレス用金型の設計製作とプレス加工を手掛けるアポロ工業の中村社長に話を伺いました。

■アポロ工業の概要について、教えてください。

中村 アポロ工業は1971年に創業しました。当時からプレスによる自動車部品、特にステーという固定金具の製造を手掛けていましたが、徐々に自動車のEV化が進み、今後、受注が減ることを懸念して、新たな取り組みとして2017年に、当時のメインであった鉄板の加工から、無酸素銅やチタンといった非鉄の加工へ切り替える大きな決断をしました。このことが功を奏し、今日のEV（電気自動車）関連部品や空気清浄機部品の受注につながっています。また、2020年のコロナ禍では、空気清浄機の部品の受注が非常に伸びました。

■アポロ工業の強みは何ですか？

中村 プレスだけではなく、高精度の金型がつけられるところです。例えば、製造ラインでトラブルが発生した場合でもすぐにメンテナンスができます。多量の受注数を処理できるフットワークの良

さも強みの一つです。

電子基板用の銅板製造における、弊社の後工程であるエッチング処理では、残留油分や埃、塵が作業の妨げとなります。そこで弊社では、通常のプレス加工では必須である加工油を一切使わず、加工後の脱脂も不要な「ドライプレス加工」を行うとともに、クリーンな環境でプレスすることで、残留油分や埃、塵を排除し、生産性と品質の向上に貢献しています。

ドライプレス加工は化学的な脱脂を行わないため、薬品による素材の変化が生じないことから、近年受注が増えている加工方法です。

■アポロ工業は新栄ホールディングスのグループ企業ですね。

中村 もともと私は新栄工業（千葉県千葉市）の代表を務めておりまして、2019年にアポロ工業（吉川市）、2022年に飯能精密工業（飯能市）とそれぞれM&Aを行いました。その後、この3社を傘下に持つ新栄ホールディングスを立ち上げ、私が代表を兼任しています。ホールディングス化は効果

持続可能な中小企業のシンボルになる！



工場内の風景



地元の吉川市が主催するセミナーに講師として登壇。左から3番目が中村社長、4番目が小田取締役、一番右が吉川市長の中原氏



的かつ効率的な経営手法なんです。

3社ともプレス加工を事業の柱としていますが、新栄工業は建築金物、アポロ工業はEV関連部品、飯能精密工業は医療部品とそれぞれ異なる領域で取引先の幅が大きく広がりました。自前で拠点を立ち上げるのは大変ですが、地場企業をグループ化することで比較的容易に営業エリアを広げることができました。また、グループ間の資金移動が容易だったり、人手が足りないときは、グループ間で出向や転籍、グループ内外注なども可能でホールディングス化のメリットは大きいです。

一方でグループとして力を発揮できるようになるには互いの信頼関係が必要です。当たり前ですが、今まで別々の会社なので勤務体制や習慣、安全や品質に対する考え方など違いがあります。互いの良さを引き出してシナジー効果を最大にするためには、こうした違いを徐々に合わせていく必要があります。信頼関係はどれだけ同じ時間を過ごしたかということに比例しますので、アポロ工業がグループの仲間になった時には、週の半分をアポロ工業に出向くなど、積極的にコミュニケー

ションを取りました。

■「アポロ技研」設立について

中村 2024年8月にアポロ工業の金型部門を切り離して「アポロ技研」を立ち上げました。近年、中小金型メーカーの廃業が増加しており、保守やメンテナンスの需要があります。また、異なる領域であるグループ企業の金型を引き受けることで、通年で仕事が途絶えない体制が実現できます。

■今後の展開・抱負は

中村 金型業界は繁忙期と閑散期の波が激しいです。それを常に一定の仕事量を維持した状態で安定して経営できるという、金型業界における持続可能性の高いビジネスモデルをつくり、金型業界の発展に微力ながら貢献できればと考えています。そのためにアポロ技研を立ち上げました。

このような10年先、20年先、30年先を見据えた私たちのチャレンジを知っていただき、読んでくださった方を少しでも勇気づけることができたのであればうれしいです。

(敬称略)